

交渉速報

J R 貨物労組中央本部業務部

2017年2月24日

No.10

**会社：収入確保に奮闘していただいている組合員に感謝している！
引き続き収入拡大に向けて努力する**

**組合：鉄道事業部門の黒字は組合員の苦闘と努力で達成した結果だ！
その苦勞に経営陣は応えよ！！**

～2017度 第2回JR総連春闘交渉報告～

中央本部は、本日第2回春闘交渉を行ない、会社から収入動向について説明を受けました。主な内容は以下の通りです。

【鉄道事業部門】

- ①コンテナは、昨年4月に発生した熊本地震や8月以降相次いで上陸した台風など、自然災害の影響はあるものの、1月のコンテナ全体で対前年101.6%となった。
- ②車扱については石油が気温低下に伴い好調な荷動きとなったことで、車扱全体で前年比107.3%となった。
- ③コンテナ・車扱の合計では、前年比103.5%となった。

【関連事業部門】

- ①久留米分譲マンション・茅ヶ崎分譲マンション（一部）の引渡しにより、1月期改定計画の達成を見込んでいる。
- ②市場からの物件購入を行うべく、これまでに2件の入札に参加してきたが落札には至っていない。

【組合の主張】

- ①職場では老朽化した設備や要員不足のなかで必死に安全で安定した輸送をおこなうために、日々、奮闘している。
- ②17年連続のベアゼロ、手当の削減、低額の期末手当、働き度向上施策に対して血と汗をかいてきた。そして経常利益は5年連続の増益となり、鉄道事業部門の黒字化も見えてきており、要求に対して満額で応えること。
- ③若年社員の退職が進んでいる。社員のモチベーションを向上させるためにも経営陣が誠意をもった回答を示すこと。

【会社の回答】

- ①組合の指摘については真摯に受け止め、収入確保に向けて最大限努力する。
- ②組合員が収入確保に奮闘していることは理解している。組合の主張については真摯に受け止めて、今後交渉を積み重ねていきたい。

中央本部は、「我々はこの間、汗を流してきた。会社経営陣は、これまでの延長線上の経営姿勢を改め、経営陣として汗をかき、組合員の期待と将来に責任をもって組合の要求に満額で応えること」を主張し交渉を終了しました。

以上

次回、第3回交渉は、3月 2日（木）です。